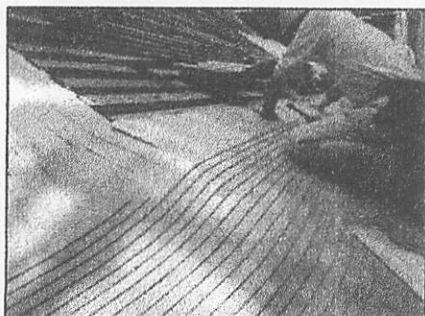




## ●人との出会い～出会いが変えた人生～

先日、テレビで柿葺(こけらぶき)の様子が放送されていました。「こけら」とは木片・木くずの意味で、厚さ2～3mmの薄い板をずらしながら重ねて並べ、竹釘でとめて、神社や寺などの屋根を葺く日本に古くから伝わる伝統的な手法です。

このように、1000年以上も続く伝統の技を受け継いでいる職業の中に、「宮大工」という神社やお寺



を建てる人たちがいます。宮大工は、鉄やステンレスの釘を一切使わずに、何年たっても壊れることのない建物を作る技を持っています。

奥谷さんという宮大工がいて、この人は今では有名な宮大工ですが、元は暴走族のリーダーとして、喧嘩やシンナー、暴走行為で、何度も警察に逮捕されていた非行少年でした。

彼の人生を変えたのは、事故を起こして入院した17歳の時、横のベッドに寝ていた人との出会いだったそうです。肩をそり落とし、頭はモヒカン刈りの彼に話しかける患者はいませんでした。横のベッドに寝ていた野田さんだけが、彼に声をかけました。「お前は暴走族のリーダーで本当に満足しているのか」「おっさん、うるさいわ。この手治ったら、しばいたるからな」こんな会話が続きしました。

それでも野田さんは、奥谷少年に語りかけました。「暴走族の頭(あたま)で終わるのか、それとも日本に30人しかいない大工の頭(かしら)になるのか。やってみたらどうや。」

こうして、何度も説得された奥谷少年は、退院後野田さんの紹介で、京都にある宮大工を訪ね、さらに秋田県に住む日本で5本の指に入るという宮大工の下で修業しました。

「3mmの板が0.3mm狂うだけでその建物の寿命が20年違う」「屋根をとめる竹の釘をうまく打てば

700年持つ」という世界で、住み込みの修業は、想像を絶する辛さだったそうです。

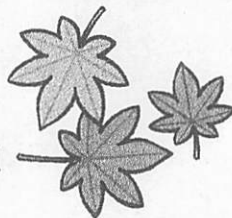
朝4時に起きて、屋根の雪下ろし、掃除。親方のすることを見ながら、技を自分で盗まなければならない日々が続きました。

こんなつらい仕事の中で、元暴走族の奥谷少年は、まじめに生きていくことの尊さを知り、今までの自分の生き方を反省し、文化財の屋根ふき職人として、日本伝統の技の後継者に成長しました。

このように、人との出会いが人生を変えるきっかけになります。皆さんも、これからの人生で、出会いのチャンスをしっかりとつかんでいきたいですね。

## ● 防災教育

11月から防災学習に取り組んでいます。



読み物教材を使って、災害にあった人々の思いや残された人々の思いを知り、自分の命と過去から現在、未来につながる「人との繋がり」について考えました。

防災マップ作りでは、住んでいる地域ごとに分かれて、身近な地域にどんな危険があるのか、災害発生時に役立つ情報や施設などを確認合いました。今後、防災マップに書き込んだ内容を、実際に見て回る機会を作ろうと考えています。

先週、校外学習で訪れた「人と防災未来センター」では、映像やジオラマ模型、多くの展示資料を見て阪神・淡路大震災や東日本大震災について詳しく学びました。多くのボランティアの方々が、震災で起こったことや、私たちに知ってほしいことを熱心に説明してくださいました。

私たちは、災害に対する正しい知識を身につけ、生命を守るために適切に判断し、主体的に行動する力をつける必要があります。また、助け合いの大切さや共生の心など、人間としての在り方・生き方について考え、地域の安全を支える存在になるよう期待されています。